

和歌山県立向陽中・高等学校 学校訪問報告

日 時 平成25年11月26日(火) 13時30分～16時00分
訪問者 山田茂雄、吉井賢吉
応対者 湯川 教頭(高校)

1 学校の状況

- (1) 中学からの進学者(内進生)と高校からの進学者(外進生)の違い(生徒の学力、教育課程など)
 - ・内進生は、全員環境科学科へ進級(2クラス)、外進生は、普通科(6クラス)へ入学する。
 - ・内進生と外進生の学力差はなく、内進生が学校をリードしていく校風になった。
 - ・環境科学科では、文部科学省のスーパーサイエンスハイスクール(S S H)の指定を平成18年度から受け、さらに平成23年度から再指定を受けて人材育成に努めている。
- (2) 生徒の通学地区
 - ・中高共に入試は全県一区で、1時間半かけて通学する生徒もいるが、市内からの通学生が中心である。
- (3) 中学・高校間の交流(会議、特別活動)
 - ・中高の合同職員会議がある。職員室は別である。
 - ・6年間持ち上がる教員はいない。
 - ・高校の教員が中学3年生の習熟度別クラスの一部の授業を行っている。

2 設置前の準備内容

- ・10月に学校説明会を行っている。小学校、中学校へ出向く説明会は行っていない。
- ・準備室を設け、当時の教頭ともう一人の2人で準備を進めた。

3 設置による影響について

- (1) 保護者、地域、県民の反応
 - ・設置に向けて市内の中学校などから反対意見もあった。
 - ・現在では、県内に5校の公立中高一貫校がある。市内には私学を含めて6校存在する。
- (2) 地区内の小中学校、保護者の進学熱への影響
 - ・元々中学受験をする地域柄で、進学熱は高い。初年度は、80人定員に対し1,000人以上の受験があった。現在は、80人に対し5～600人の受験者がある。

4 学習指導への取り組み

- (1) 6年間を見通したカリキュラム上の特徴
 - ・S S Hの研究を通して、中学では3つのV I E Wを通して付けたい力を育成する。
 - ・3つのV I E Wは「①サイエンスV I E Wとして、理数に関する系統性の重視 ②コミュニケーションV I E Wとして、国際化や社会生活に対応する豊かな社会性の育成 ③環境V I E Wとして、環境をテーマとする6年一貫した学習」を行っている。
 - ・S S Hで理科中心に発表や研究を行うことで、先輩と後輩の繋がりができる。
 - ・中高共に70分5時限の日課である。
- (2) キャリア教育の実践状況
 - ・中学で、企業訪問、職場体験、職業ゼミナールなどによって職業観の育成を行っている。
 - ・「先輩に学ぶ」や「高校生に話を聞く」など進学に関する行事で視野の育成を図っている。
 - ・S S Hによる大学との連携で、京都大学、和歌山大学などの特別講義を行っている。
 - ・異文化理解、国際理解の実体験として、海外修学旅行がある。

5 中高接続に関わる事項

- (1) 部活動の現状について
 - ・中高ともにあるクラブでは合同で行うこともある。
 - ・発達段階に応じたクラブ設定をしている。
- (2) 中高合同の活動について
 - ・生徒会は中高別々にあり、交流がある。行事においては、体育大会や文化祭を合同で行う。

6 大学進学状況

- ・和歌山大学に50名以上が合格し、難関国立大の合格者数も安定している。
- ・現役で、4割以上が国公立大学へ合格する。

7 その他

- ・校内は広い。
- ・中学棟は校舎を改修し、技術室は教室を改装した。また、中学生用の保健室を常備した。
- ・平日は、中高とも70分5限授業で、15:35に必ず放課としている。
- ・高校では高1、高2は平日に補習はしないが、代わりに土曜講座を年12回実施している。その時間は部活動を禁止し、講座を優先している。その結果、中学生が、その土曜日に部活動のびのび行っている。